



<http://www.tendaitokyo.jp/>



元三大師像(西光寺藏)

僧正の称号も  
賜り、比叡山  
中興の祖とし  
て宗祖伝教大  
師最澄さまの  
「御教え」を  
大成されたの  
です。当時比  
叡山は三千の  
堂宇を数える

祭され、その信  
仰が広まつて  
いきました。

元三大師の中開帳とは、五十年毎の御開帳の中間である二十五年目の御遠忌の年に行われる。

会が比叡山延暦寺はじめ  
関係寺院で行われました。  
爾来二十五年、今年  
は元三大師中開帳という  
有難い勝縁の年を迎えました。  
元三大師の信仰は  
今日でも真に篤く、全国

に遷化されました。その二年後、一条天皇は大師に対して「慈惠」の謚号（おくりな）を与えましたが、世には「元月の三日のお大師さま」として人々に尊崇され、その信

元三大師中開帳 がんさんだいし なかがいちょう

に多くの靈場  
があります。

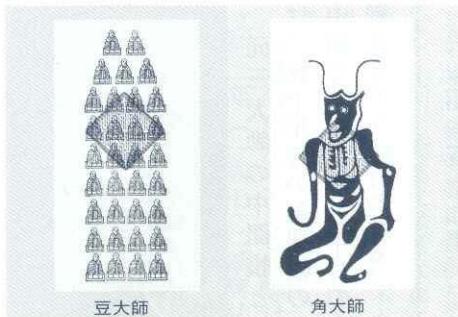
いま元三大師といえ  
ば、家の門口に貼られて  
いる疫病厄災を除く「角  
大師」のお札が有名で  
す。上野寛永寺を開かれ  
た天海大僧正は元三大師  
への帰依篤く、江戸市中  
の家々にはこの角大師札  
が多く見られたようで  
す。江戸時代の川柳にも

ほど發展していったのであるが、次第に退廃も進み、山内の立て直しが急務でありました。この期に当たり元三大師は、第十八代天台座主として治山十九年に及び、一山の徳望、朝廷の帰依も篤く、その絶大な統率力を以て、諸堂の復興や制度を改めました。特に教学の発展に努め、恵心僧都はじめ高弟達を教導されました。元三大師は今日の天台宗、いな日本仏教の展開の基を築かれたといつても過言ではあります。

「門松にかくれ顔なり角大師」とあり往時の民衆に信仰が窺えます。現在深川にある江戸資料館の庄屋さんにもこの札が貼られています。

また各地の寺社ではおみくじが盛んであります。その創設者は元三大師です。おみくじは観音様の教えにより人々の苦難を助けるものであります。先の角大師のお札と一対をなす「豆大師」は小さな大師像を三十三体並べて描かれ、觀音菩薩の三十三変化身を表し、觀音様が仮の姿でこの世に現れたことを示しています。

天台宗で大師といえば元三大師を指し、宗祖伝教大師を凌ぐほどであり、現に多摩地区では「大師通り」という正式な道路が存在し、往時の大師信仰の盛んなることが偲ばれます。是非



○比叡山横川元三大師堂  
(東京教区法要)  
九月八日  
十一月二十七日  
十二月三日

この中開帳という勝縁に、「元三大師さま」にご参詣ください。

現在予定されている東京教区の元三大師中開帳は、

いま世の中は老若男女もさまざまなお姿のものがありますが、特に阿弥陀さまなどの如来像や、観音さまに代表される菩薩像のなかには蓮台(ハスの花を模つた台座)上で瞑想しているお姿があることに

お気付きの方も多いと思います。「一般に『仏像』とい

うと、蓮台を含めたお姿全体を指すことになるわけですが、はたして私たちの視覚で捉えることのできる部分だけをもつて仏像を拝したとして良いものか、そんなことを最近考え

ドロドロとした嫉妬、怒り、欲望といった煩惱を認めつつ、決してそれに染まらない理想的な人間の生き方を示したブッダのありようをだそうです。

ひとくちに仏像といつて

もさまざまなお姿のもの

がありますが、特に阿弥

陀さまなどの如来像や、観

音さまに代表される菩薩

像のなかには蓮台(ハスの

花を模つた台座)上で瞑想

しているお姿があることに

お気付きの方も多いと思

います。

「一般に『仏像』とい

うと、蓮台を含めたお姿

全体を指すことになるわ

けですが、はたして私たち

の視覚で捉えることのでき

る部分だけをもつて仏像

を拝したとして良いもの

か、そんなことを最近考

えます。

その生き方はまさしく清ら

かなハスの花そのものとなる

のであります。

しかしここで大切なのは、

仏さまは決して泥を捨てた

のではない、ということです。

泥をさらつてしまふと

花もたちまちに枯れてしま

うのです。あくまでも花と

泥は同時に存在するもの

なのです。だから目には見

えなくとも、あの美しい仏

像の下にはドロドロした泥

沼があるはずなのです。み

んな生きている以上、煩惱

は有つてあたりまえ。あな

たの心のなかのドロドロも

よくわかるよ、と仏像が私

に語りかけてくださるよ

うな気がします。それでい

て決して泥に染まらない

生き方が私たち一人一人

にちゃんとあることを示し

てください、知らず知ら

ずに染まっている自己の煩

惱を省みるきっかけを与

えてくださるのだとと思

います。

## 蓮華の如く

そもそもハスは仏教のシンボル的な植物ですが、ハス池を想像してみてください。ハスはドロドロした泥沼にあって汚れひとつない見事な花を咲かせます。これは私たちのなかにある





## 一隅を照らす運動 東京大会

第四十回を迎えた記念の大

会

が、六月六日(土)九段会館に於いて、およそ千人の参加者を集め盛大に開催された。

参加者は当日配られた経本を手にとり、世界平和と人々の幸福を祈り一緒に「お勤め」した。

法要後、仏教思想家ひろさちや先生に講演を頂いた。ひろさち先生は仏教を中心に宗教思想を講演などで解かりやすく説き、多くの人々の支持を得て

いる。

ひろ先生は、昔話『舌きりすずめ』をとりあげ「ありのままの姿」について講話され

た。

『舌きりすずめ』とは、おばあさんの糊をなめてしまったすずめが、おばあさんに舌を切られてしまう、というお話。謙虚でやさしいおじいさんは、舌を切られてしまった雀を心配して雀のところに行き、帰りに宝箱をもらう。それを聞

いたおばあさんも真似をするが、宝箱から化け物が出て来てしまう。ここで、ひろ先生は「すずめからもらった宝箱は、すく語られた先生に、会場から大きな拍手が送られた。



第四十回「一隅を照らす運動 東京大会」は先般九段会

館大ホールに於いて盛大に開催されました。これも偏に各位のご尽力のお蔭と感謝申上げます。

皆様からの善意の募金は

伝教大師最澄は『法華經』を通じて我々に教えて下さってい

る、と力強く語られた。そして聴衆に對して「我々は伝教大師に学んでいるものとして、諸の通り活用させていただきま

深い内容であつたが、巧みな話術で参加者全員、話に引き込まれていった。

ひろ先生の講演を通じて、

また先生は、現代の親と子供の問題に触れ、「子供は仏様からの授かりもので、皆仏様の子なんです、皆素晴らしいんです。そのまで十分素晴らしくないです。」と話され、「ありのままの姿」の大切さを訴えた。

物事をありのままに觀る心を

また先生は、現代の親と子供の問題に触れ、「子供は仏様の精神を世界に広め、さらに、教育、親子等、身近な問題解決の為に力を尽くさなくてはならない事だと思った。

記

一、天台宗地球救援事務局 委託金  
一、〇〇〇〇〇〇円也  
一、東京教区一隅運動救援基金  
一〇九・七〇六円也

以上

者全員、真剣な面持ちで先生の話に耳を傾けていた。深いお話をユーモアを交え、解かりやすく語られた先生に、会場から大きな拍手が送られた。

### 「善意の募金」御礼



## 圓通寺

高月城址の北に位置する圓通寺には、多くの枝垂れ桜がある。一見しただけでは想像はできないが、寺伝によると延喜三年(九〇三)延暦寺西塔の祖である大乗大師惠亮和尚の徒本寺として御朱印百石を許され、また高月城主大石氏の篤い信仰を受け、三万坪余りの広大な境内地を有していた。

しかし、終戦直前の昭和二十年七月六日に米軍機による爆撃を受け、残念ながら伽藍は焼失してしまう。

圓通寺の末寺である当寺は文明二年(一四七〇)順興法師を開基とし、亮子によつて創建されたと伝えられている。

本堂は慶長十八年(一六三三)火災にあつて焼失したが、寛永十三年(一六三六)に再建され今日まで三百七十年以上

## 西光寺

昭和五十八年に再建された本堂のご本尊は、秘仏聖觀世音菩薩で、平安時代定朝の作と伝わる。また奥の院地蔵堂にある峯之地藏尊は平安期智証大師開眼の延命地藏尊で、現在でも毎年夜例大祭が開かれ多くの信者で賑わう。また、本堂内にある白蛇に坐した延命地藏像は、死後も白蛇の姿になつて給仕を続けた道西という僧の姿だとう。

渓流釣りで賑わう秋川を望む地に、西光寺は位置している。山門の両脇には巨大なケヤキが立ち、境内の沢山の木々は心を和やかにさせてくれる。



## 天台の寺めぐり

28

あきる野周辺

## 玉泉寺

五日市街道北側、少し入った木立の中に玉泉寺がある。山門両脇の、平和を願う赤子を抱く仁王像に見守られながら参拝してみよう。

境内に入ると大きな樽が目に飛び込んでくる。地元の醤油工場で使用されていた仕込み用のものである。中から平和観音像と恵比寿様、そして赤

経過した貴重なものである。

また、本堂右手にある観音堂は文久二年(一八六二)再建のもので、堂内には聖觀世音菩薩と馬鳴菩薩が祀られている。馬鳴菩薩は養蚕の神とされ、戦前には近隣はもとより遠く山梨からも大勢の参詣者が十八日の縁日に訪れたと

松の大木の下からは子育て地蔵が優しく微笑んでくれる。

開創年代は不詳だが、現在の本堂・山門・鐘楼は元禄四年(一六九一)頃に再建された。

また丸に立ち葵の寺紋は、信州の善光寺の別院の役割を担っていたことをうかがわせる。

戦前までは、元禄六年(一六九五)に寄進されたご本尊阿弥陀如来を中心とした「お十夜の寺」として秋川流域の淨土信仰の中心的な役割を果たしてきた。

また、本堂左側には、成田から来たとも伝えられる西多摩最大級のお不動様が安置され、毎月護摩が焚かれている。



## 天台の寺めぐり

28

あきる野周辺

